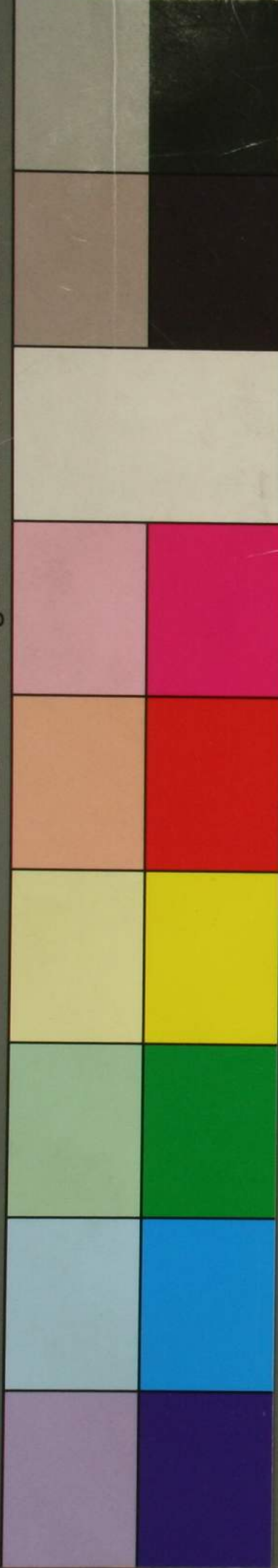


KODAK Color Control Patches

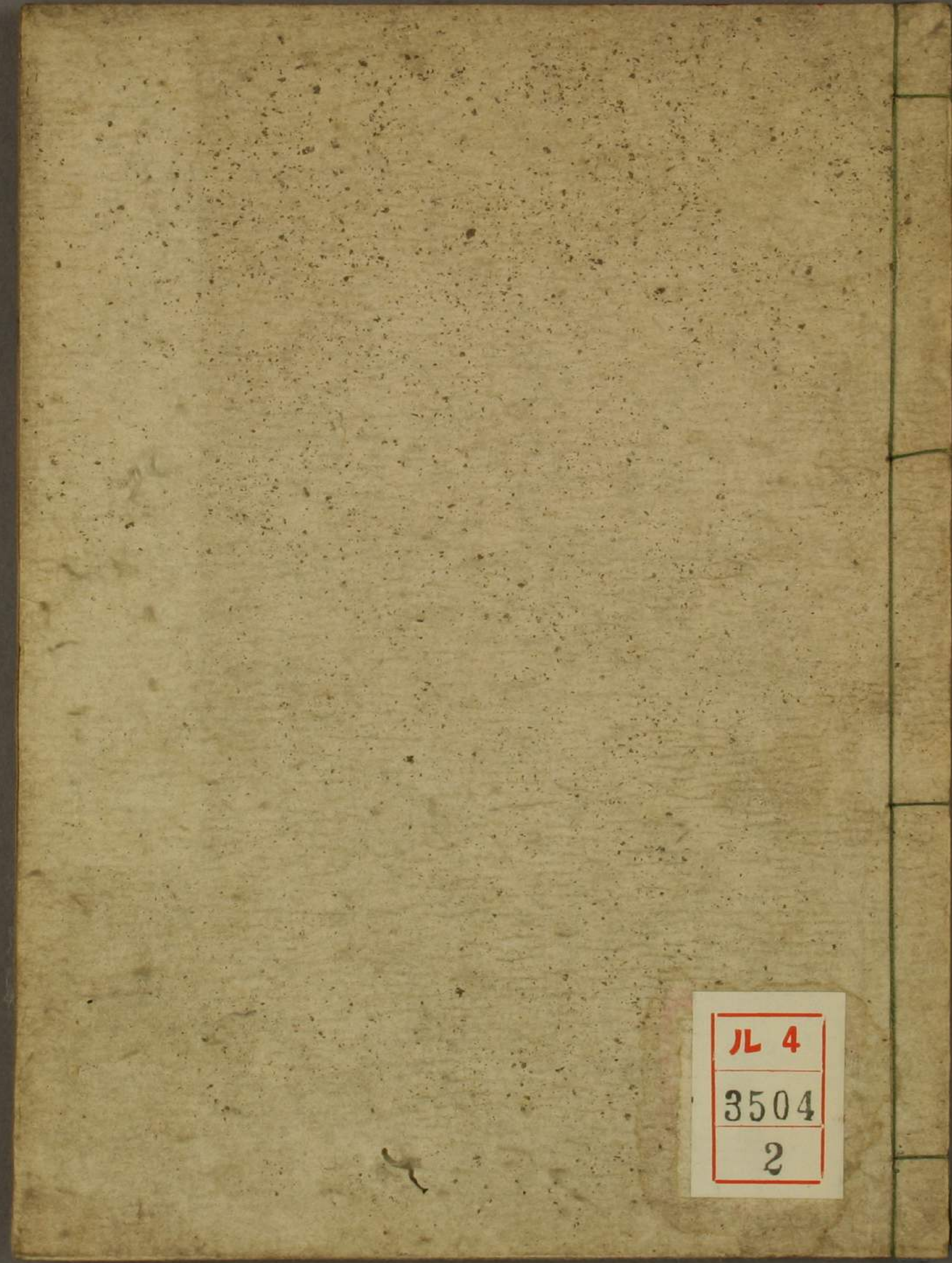
© The Tiffen Company, 2000

LICENSED PRODUCT

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



ル 4  
3504  
2



目録 3  
1918  
24

門 儿 4  
號 3504  
卷 2

明治二己巳年中復新鑄

官許

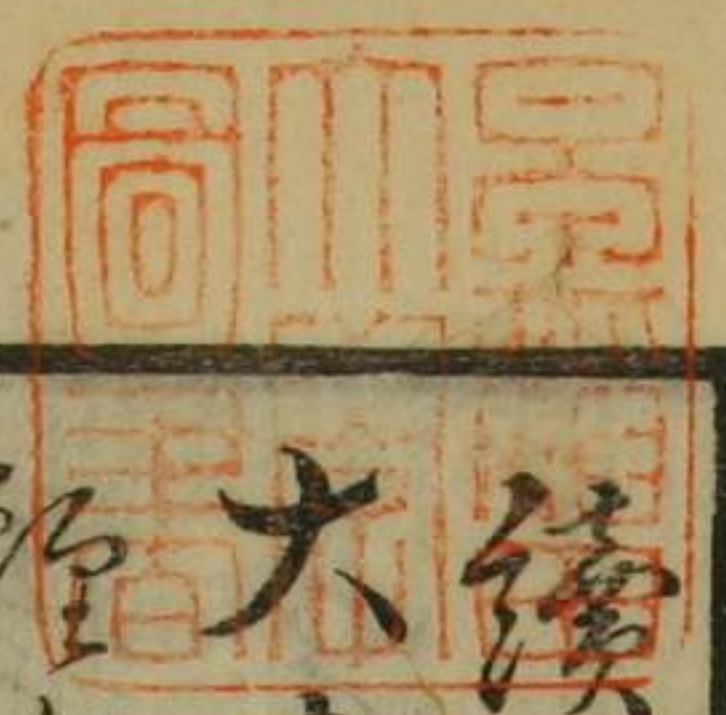
不許翻刻

赤報忠士東山墓墳

續隱玖菟岐集

東福寺山戰死由来記

京師書林 菊秀軒發行



續隱玖菟岐集序

大御國の存不忠を憂へ一身命を

殉くありし後不有志士の忠亮成

祭祀せしむるのたゞし記

忠念を賜ふより列國の殿有志の

層郵よまを述べて神靈と祭祀し

給ふ今云々新山と神鏡鏡を添

と



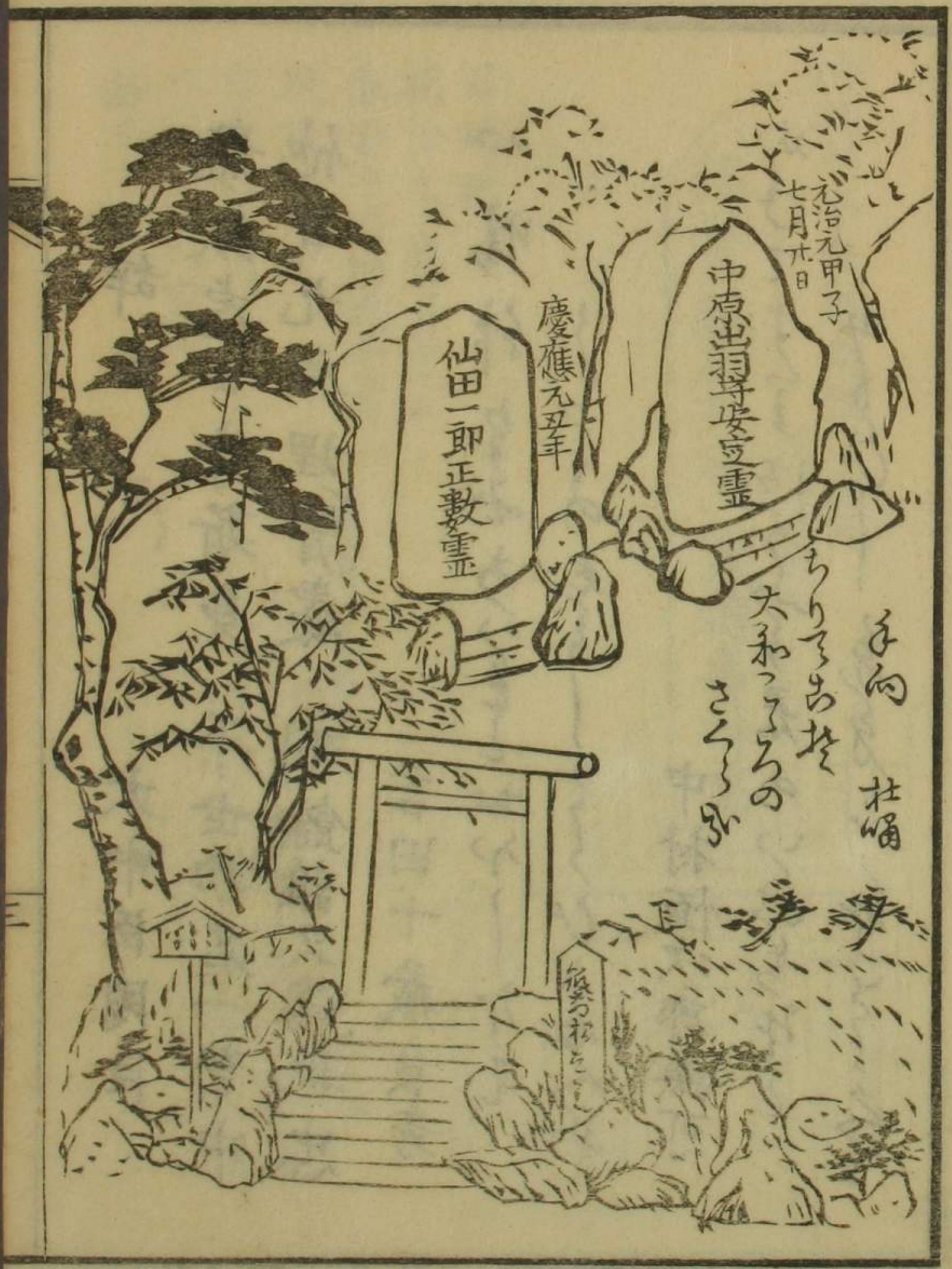
大新國の神玉事方仕舞を仰せ  
 捧ておまじ福寺山乃神宮教功の  
 由來招免端も念し先の経致  
 荒路桑子吹く経経致経経集  
 歌し其功績を仰せし事し経  
 終ふ事なりと六行也  
 明治二十七年  
 己卯夏  
 東山雜家主人  
 高野謙

平野次郎大中臣國臣真蹟縮書

天津の勢  
 婦計也経通  
 旅乃白尔  
 宗法系勢  
 安らるる止者於意不  
 中波

真蹟縮書

筑前招魂之場圖



辞世

大中臣國臣

龍鉄虎口奇斯身 半世功名一夢中  
他日九原埋骨處 刑餘誰又認孤忠

吉田十藏良秀

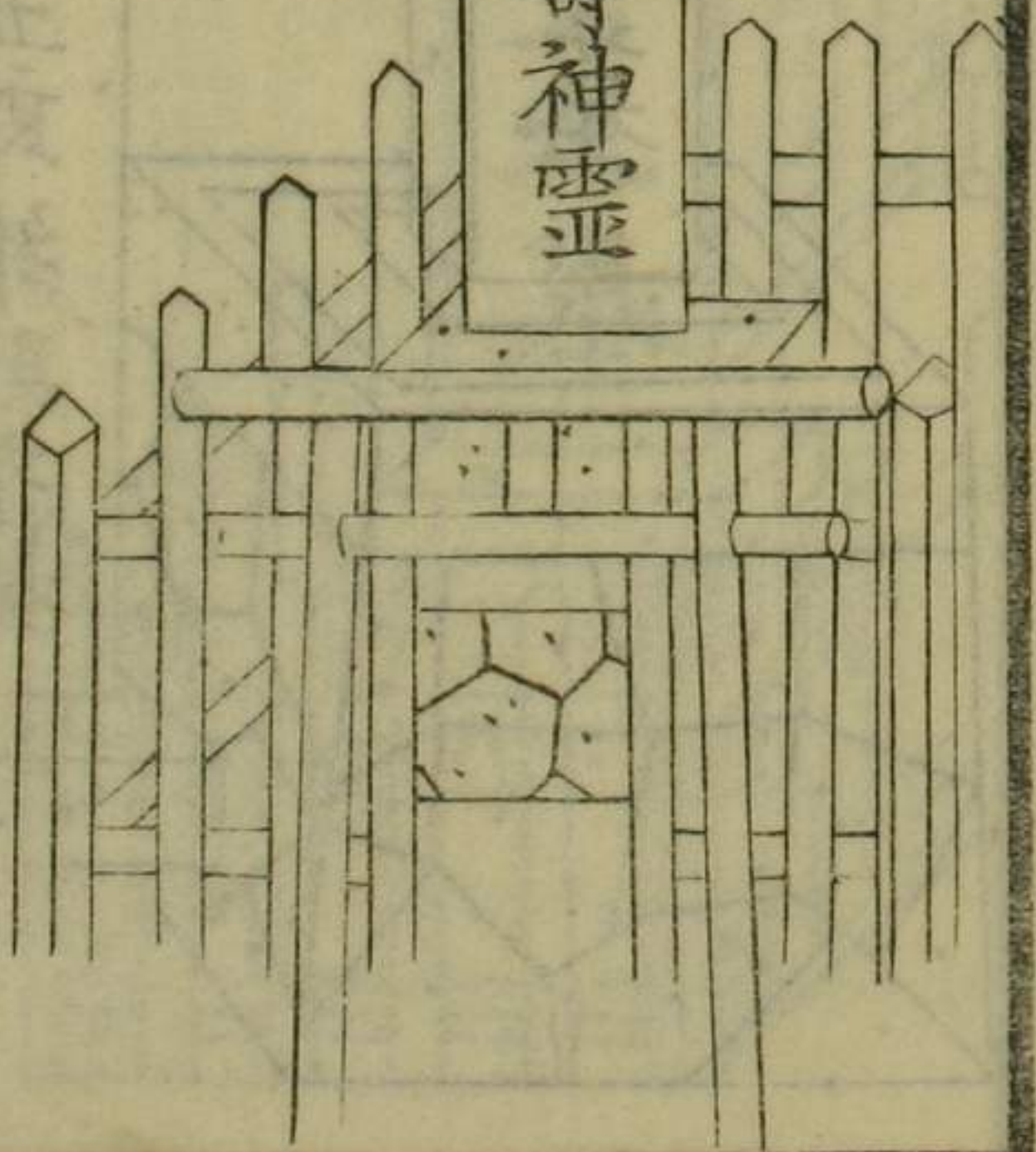
ハ情状をいふありきとおかしくな  
うらみのあはれしをいひてむ人も

中村恒次郎無可

かひよよまほうふ多君のいれちた  
あはれしをいひてむ人も

於羽州平鹿郡角間川戰死  
享年二十二

澤殿臣藤原整崎大藏德壽神靈



石碣記  
明治元戊辰七月十九日

奉命于羽州賊平焉

欲功而到于

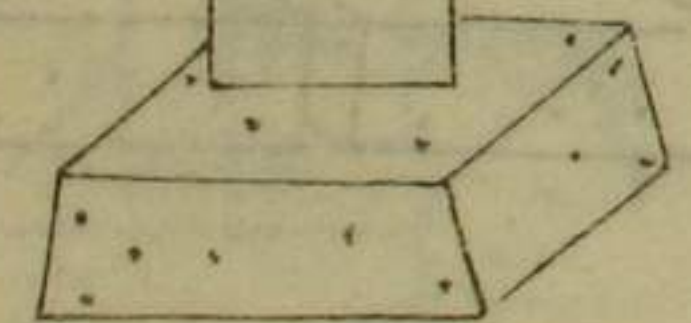
京師病死日己巳正月

廿二日葬于靈山

齡三十有二

長崎振遠隊

坪田清三郎之墓



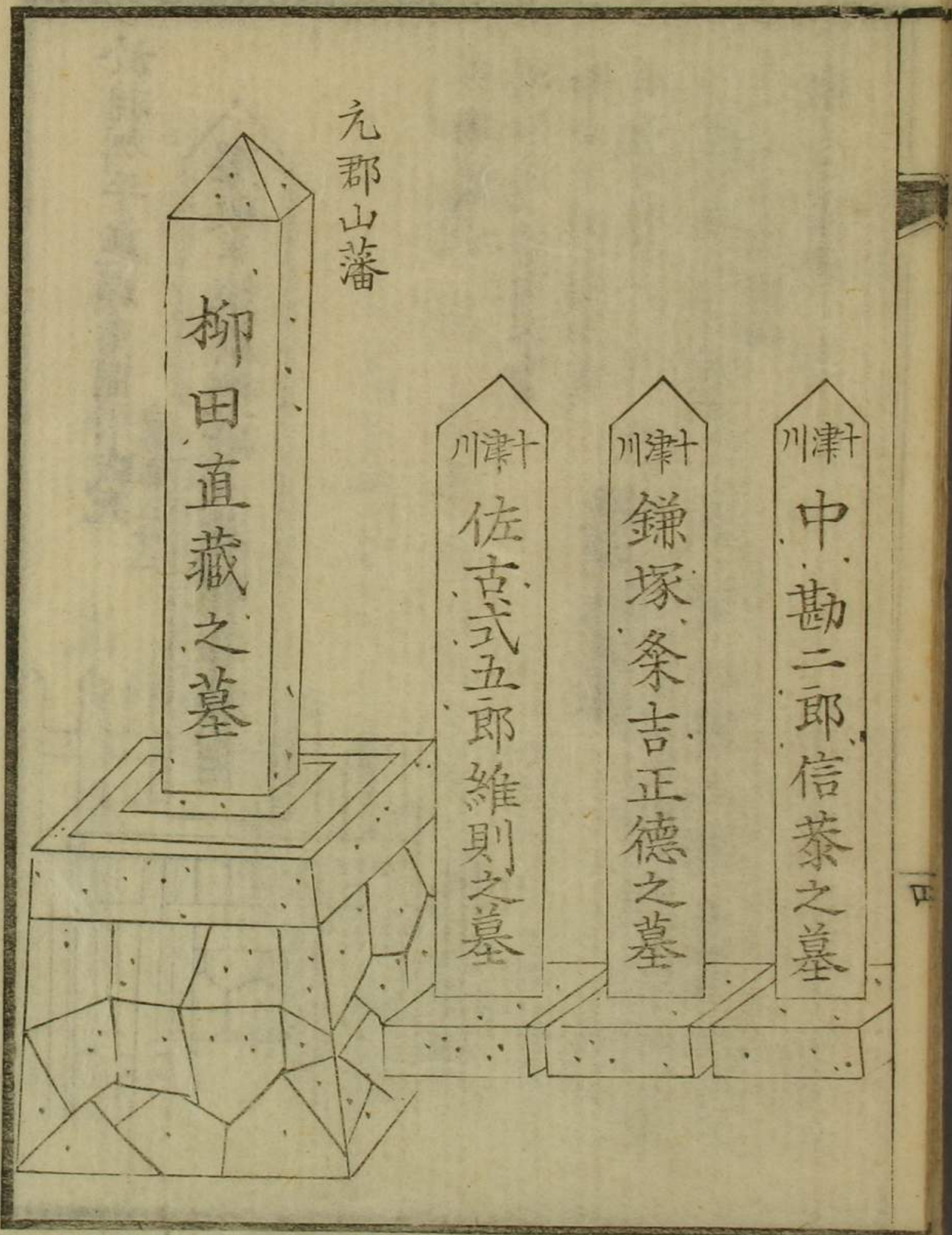
元郡山藩

柳田直藏之墓

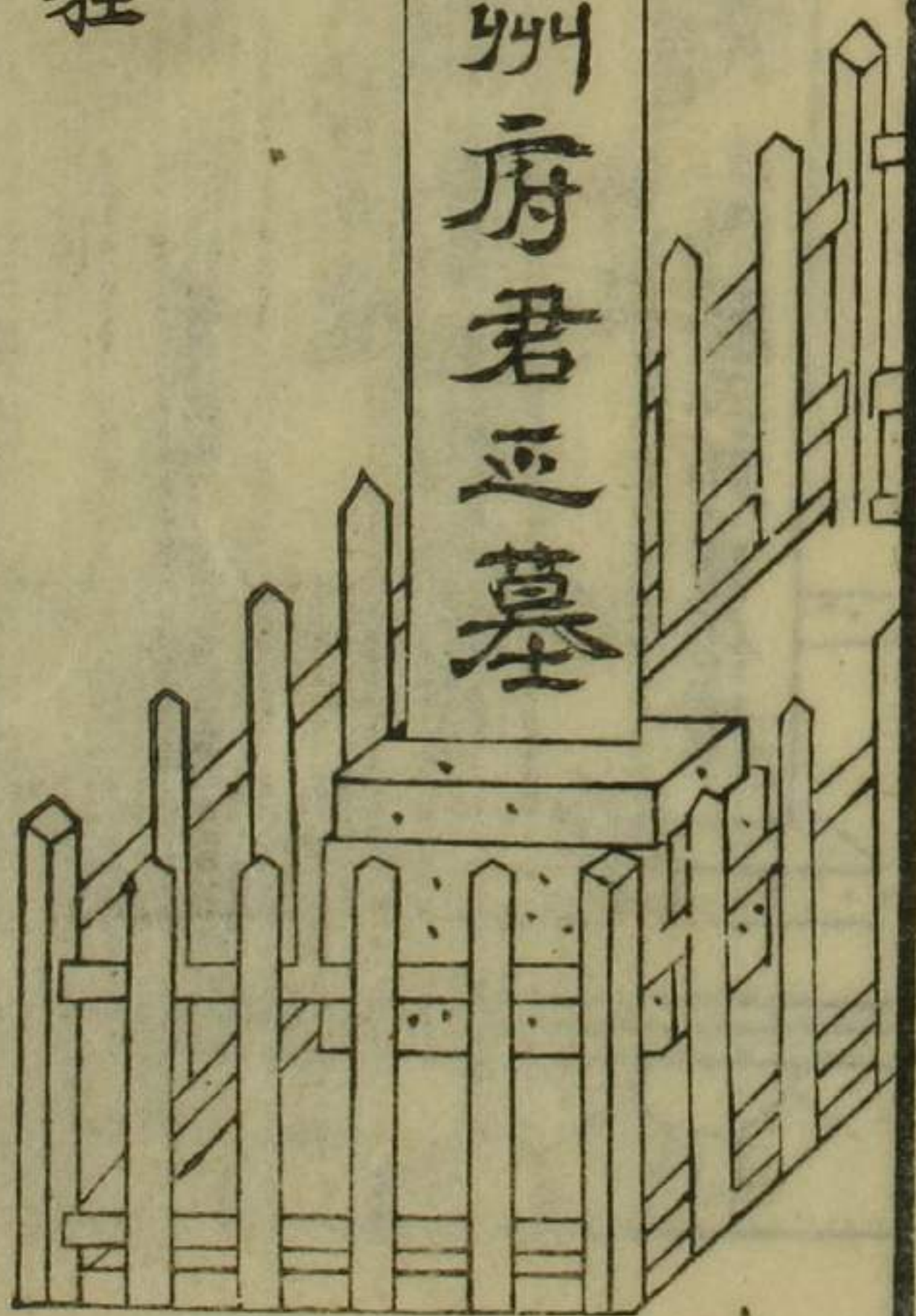
川瀬中勘二郎信茶之墓

川瀬鎌塚条吉正徳之墓

川瀬佐古式五郎維則之墓



赤林寺因州府君之墓



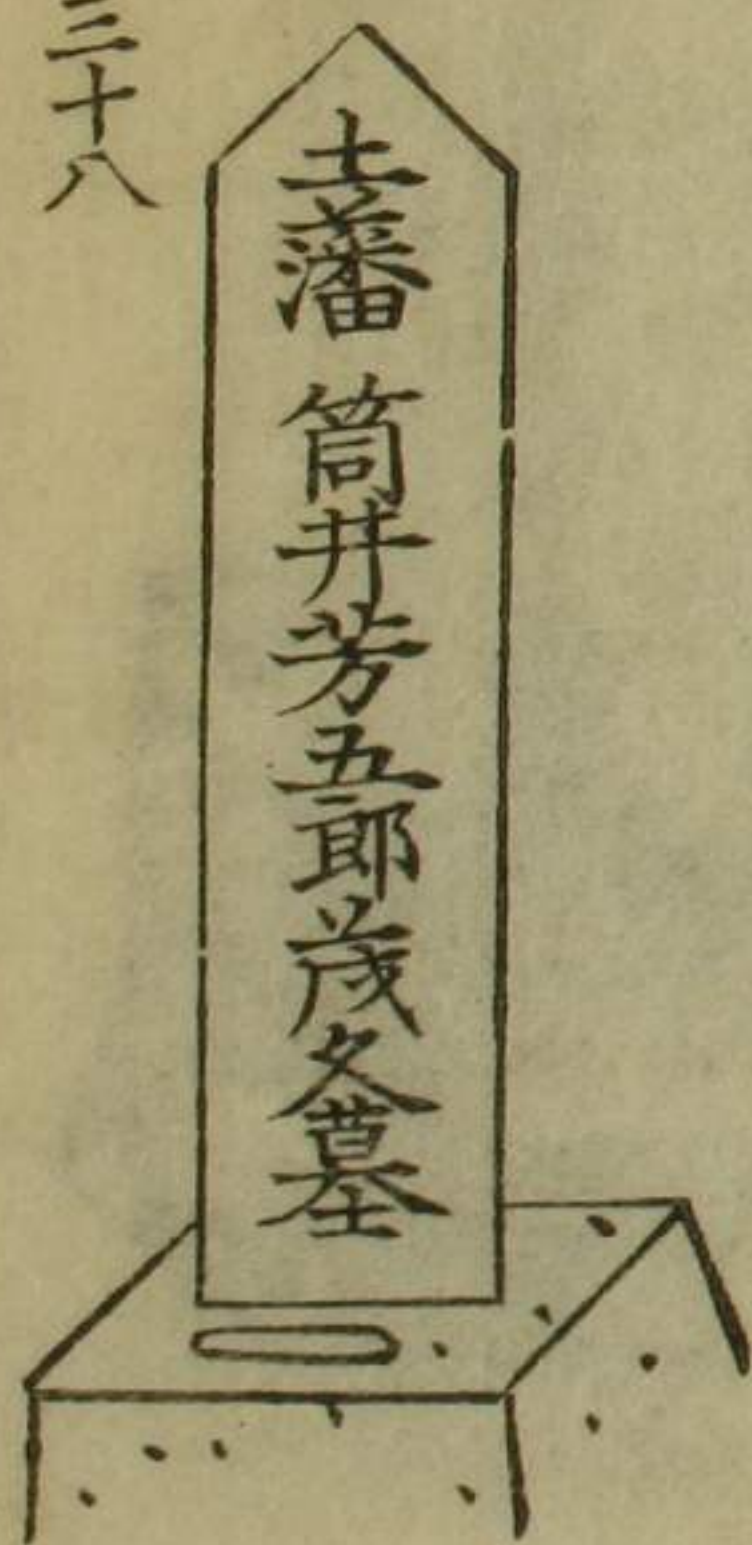
石碣二記

慶應四年正月三日賊兵謀狂  
闕乃

勅薩長及土藩出兵討賊  
茂久從隊長吉松連之助  
霄發翌日晨與賊戰于  
伏見驛中鏡丸不屈而賊  
遂賊敗後患其傷以二月十日歿

年三十八

土藩筒井芳五郎茂久之墓



慶應四戊辰八月十日於  
奥州宇田郡菅谷口戰死年四十一

元水口藩

主審隊 徵兵 大監察西本祐準方則墳

日年八月七日日國大坪村戰死年十八

元加納人

主審隊 徵兵 川田敬藏義信墳

日年八月九日於日國日尻口戰死年三十一

元龜山藩

主審隊 徵兵 松山豊次郎英敏墳

日年八月十日於日國菅谷口戰死年二十九

元尾州人

主審隊 徵兵 藤井主稅高敏墳

日前

元大坂人

主審隊 徵兵 山内勝三郎重信墳

年十七

日前

元岩手人

主審隊 徵兵 水野定吉友重墳

年三十二

日前

元濃州人

主審隊 徵兵 家村年三郎兼貞墳

重復日十四日死年三十四

日前

元岩手人

主審隊 徵兵 中川源八郎兼光墳

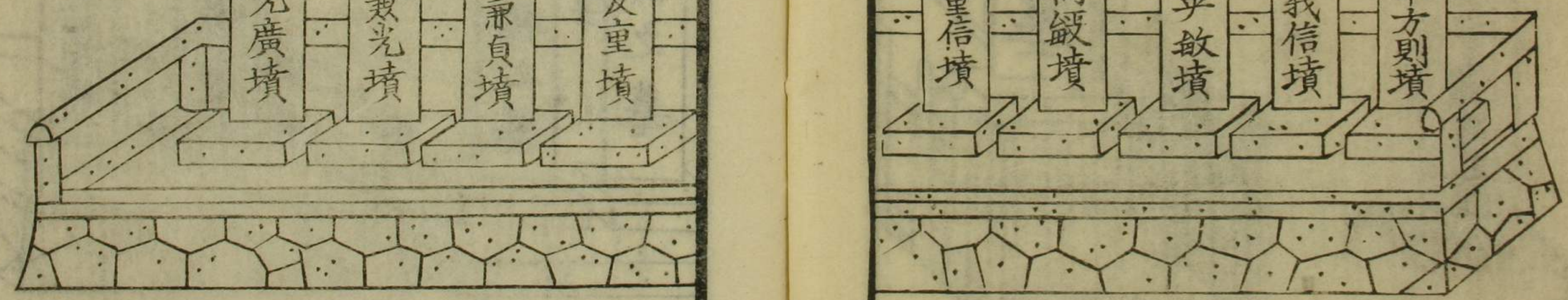
重復日廿五日死年四十九

日前

元尾州人

主審隊 徵兵 伊藤半七郎光廣墳

重復日廿九日死年三十



慶應四戊辰三月三日豐後國於鶴壽死

肥後 黑瀨市郎助美之招魂碣

元治二乙丑八月長門國於壇浦死

肥後 安田喜助保臣招魂之碣

水口浪士

大丈夫當期此時 豐田美稻

千秋正義在攘夷

勤王事業君若問

唯說楠公是我師

豐田美稻之墓

元治元年甲子七月十九日戰死 作洲土井鄉士

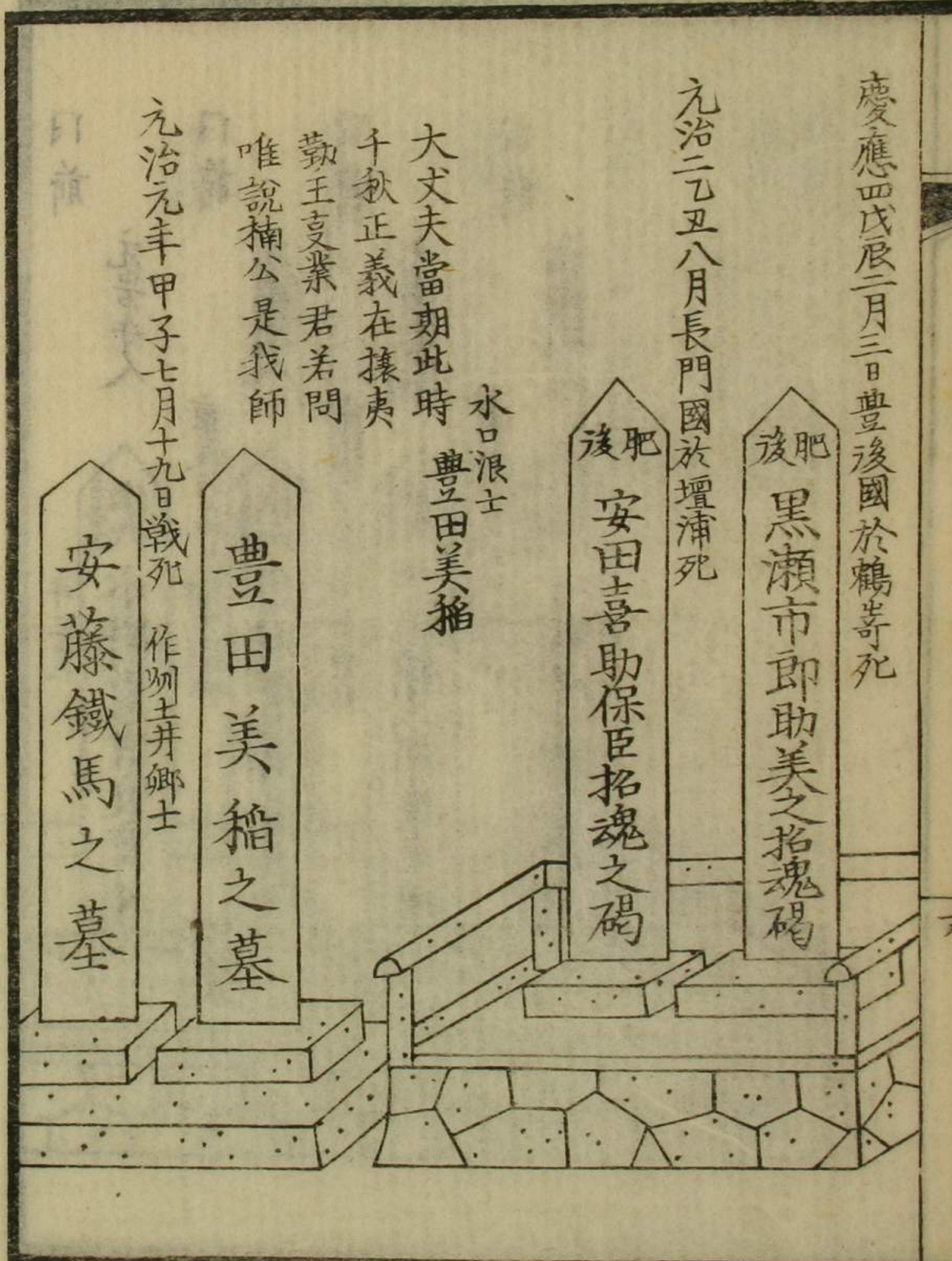
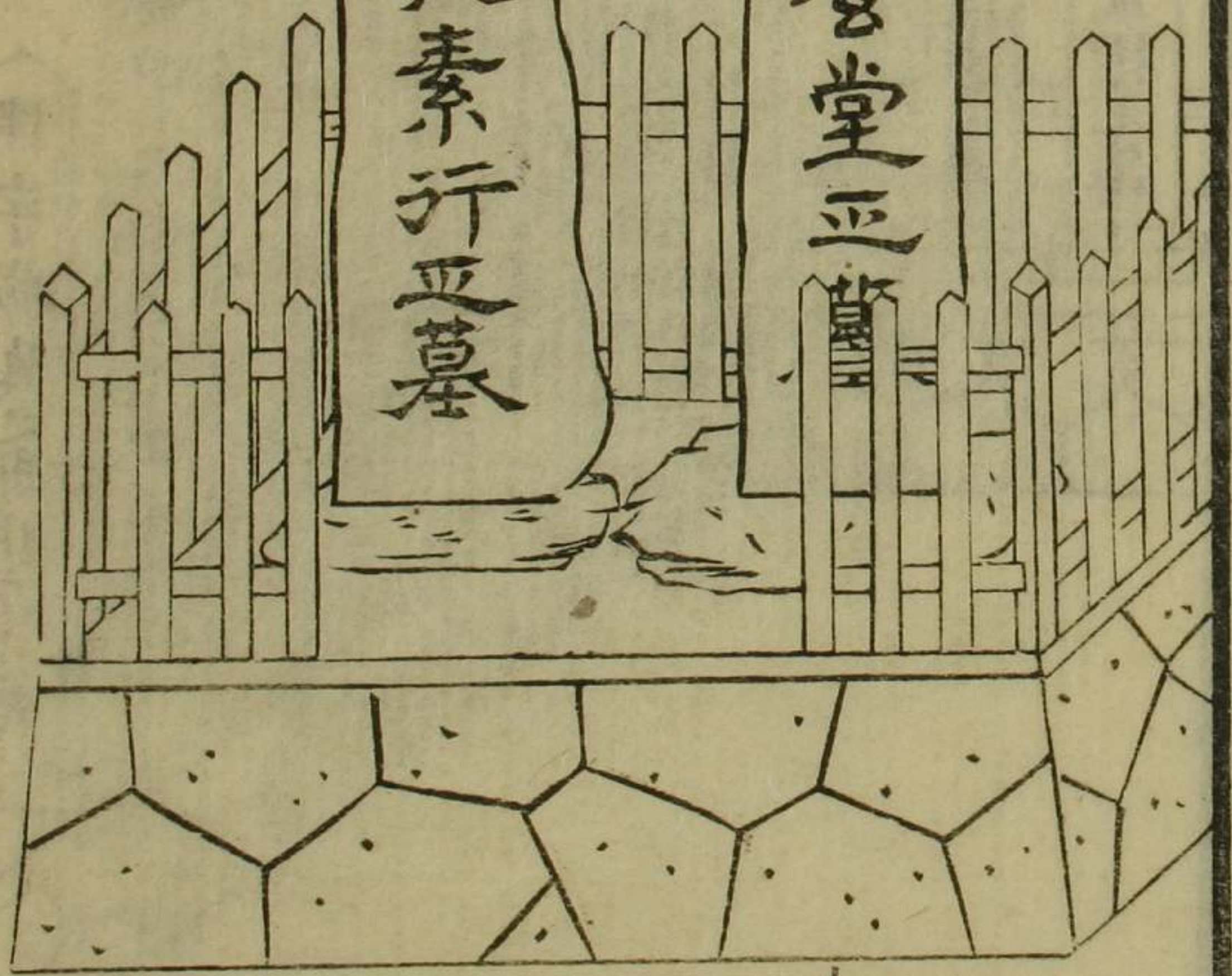
安藤鐵馬之墓

慶應二丙寅年  
十月朔日於大坂亡

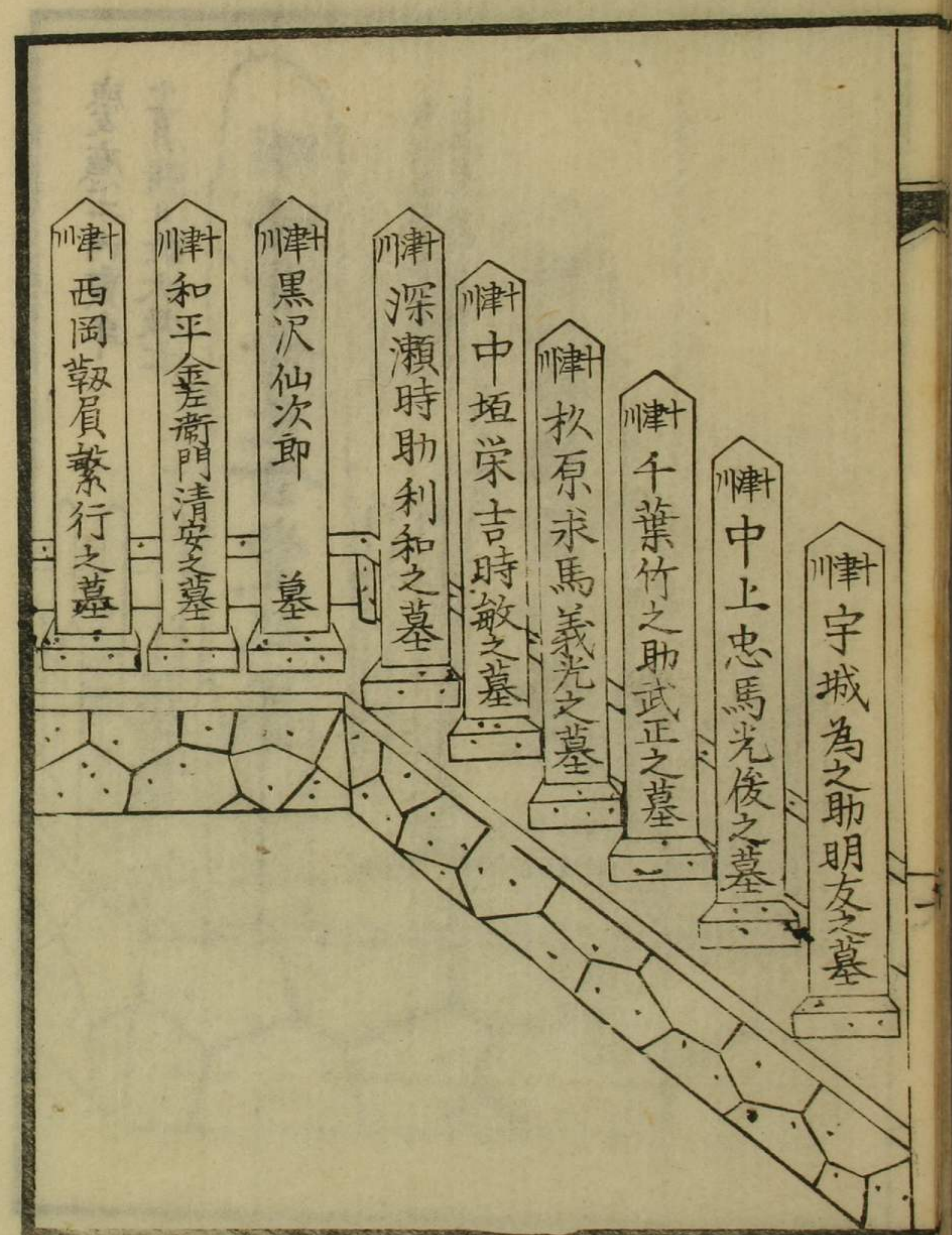
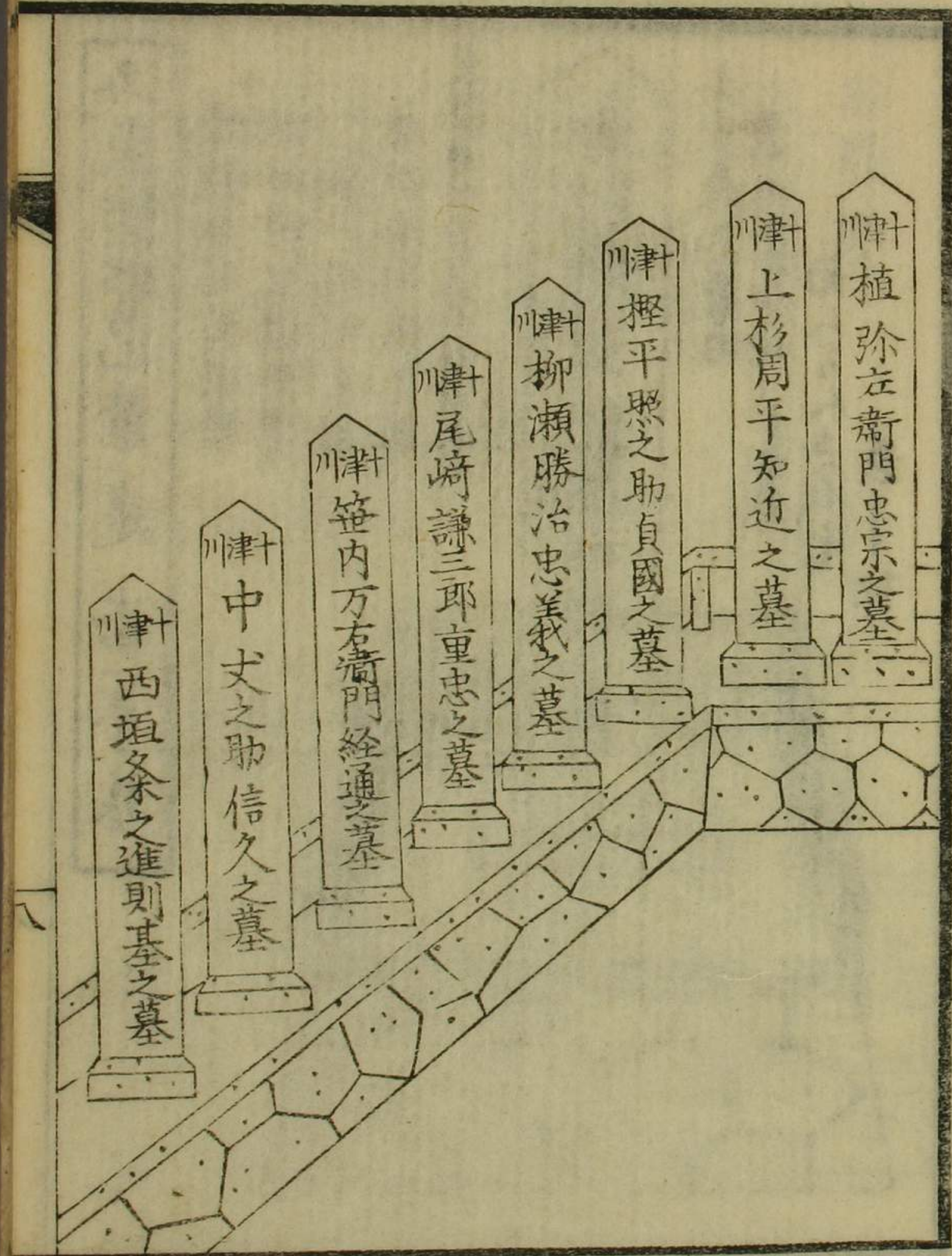
明暗寺省主玄堂之墓

元治元年甲子年  
七月十九日於京師亡

明暗寺徒素行之墓







洛東靈就鳥山麓二建 大和一舉ノ墓

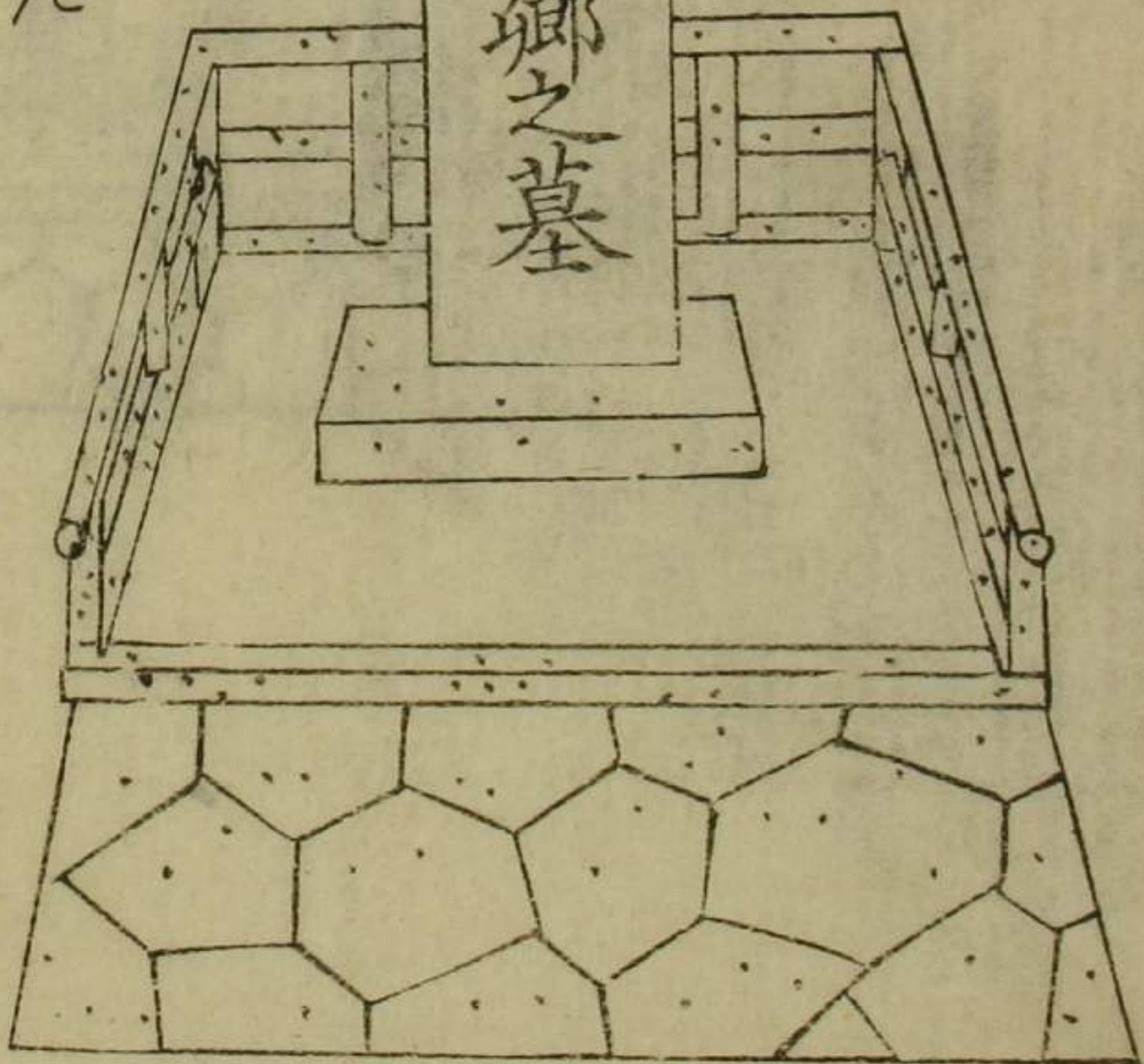
櫻樹未開柳眼昏  
決心呼友酒終宵  
一家一同何足惜  
宣使本朝為本朝

文久三癸亥九月於大和國戰死

土州ノ人

吉村寅太郎藤原重郷之墓

よけ山守の  
木の葉をわらけり  
おのこころを  
かへりて  
悲しき



石碣二記ス

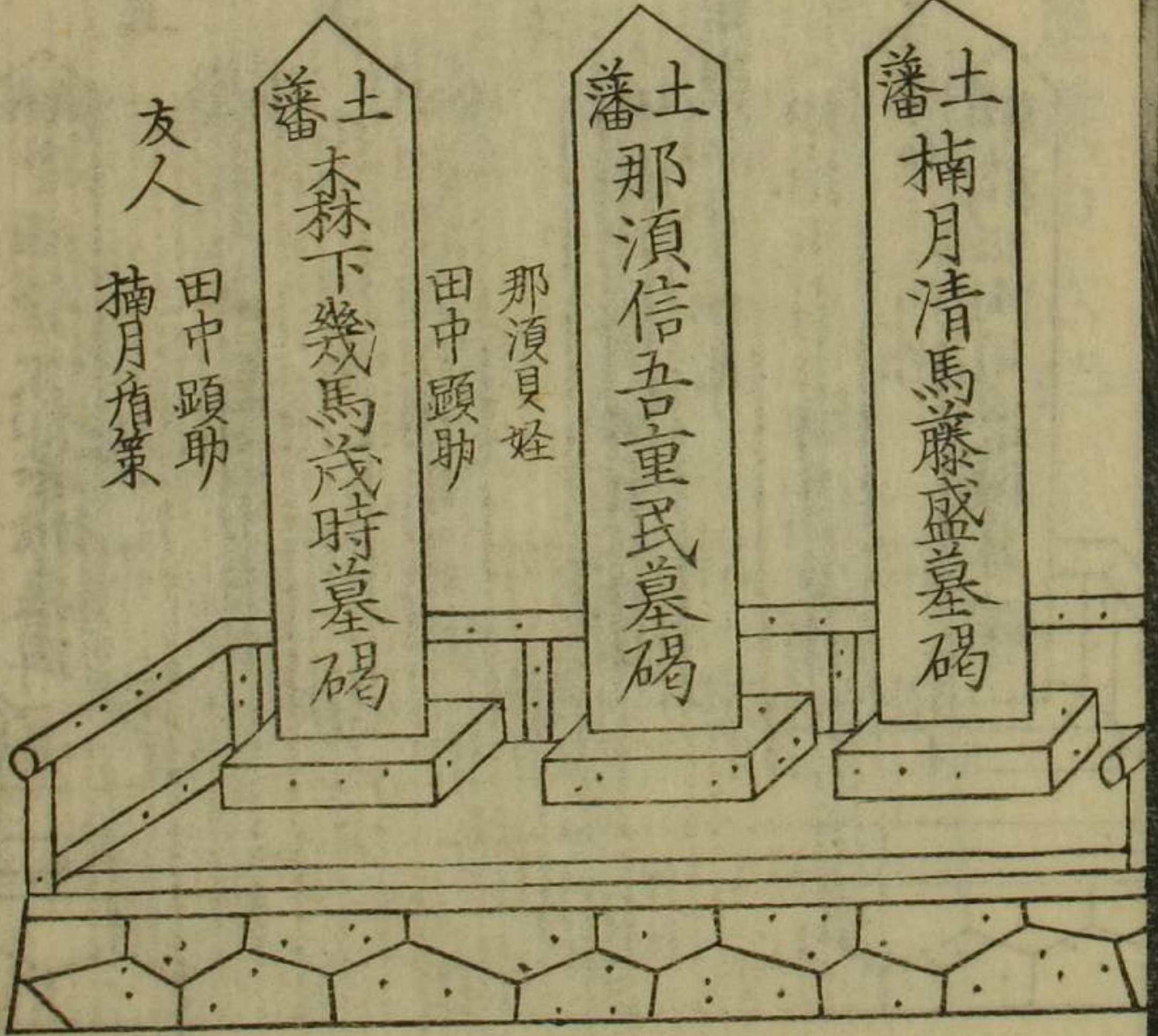
文久三年癸亥  
九月廿五日以有故  
戰死干和州幕兵  
斬其首而贈  
京師終假埋又  
於洛西刑擅場今  
幸得  
官許改葬于洛東  
鷲尾山者也  
時慶應四年辰五月  
廿四日  
楠月某兄  
楠月盾策

土藩 楠月清馬藤盛墓碣

土藩 那須信吾重氏墓碣

土藩 木村下幾馬茂時墓碣

友人 田中頭助  
楠月盾策



文久三年癸亥死

筑中垣録太郎幸推墓碑

日上

筑荒卷年三郎真刀墓碑

日上

筑江頭種八國足墓碑

日上

筑酒井傳次郎重威墓碑

元治元甲子七月十九日死

筑池尻嶽五郎丘山墓碑

文久三癸亥年九月死

筑鶴田陶司道德墓碑

言をまき刀

もろもろふ

君のそとと

いささか

ふのあゆを

とら

う

は

ふ

東福寺山戦死墓碑由末記

四海困窮せを天縁長くおとんと官をりり物  
往昔安元の間小徳川列祖征夷の軍威厚ふ

して東武より覇府を築き上

天朝を多し列藩を愛慮し下方民を撫育

し多ふ故救世業を承るし多ふ安永年中

少ありお夷の津し我

神妙の富國を志すは交易を求んるを致す  
後朝の文臣列國の法候流後を辱し領土の  
建白有る付

朝裁小職等おまの松

勅を下し多ふとて在幕吏因緒して今日お

事なる交小慶應三年丁卯十月徳川内府建白曰

臣慶喜謹る

皇國時運之沿革を考ひ昔

王綱紐を解て相家権を執り保平の礼政權を

門小移りてより祖宗に至り更に幕府を設けり

二百余年子孫相受其職を奉ずるといふ

政刑苟を失ふ事不あり今日之形勢を以て

年去る勢を以て不致不壞懸懼の况や當今外

國之交際日々盛なるより愈

朝権一途を出る中より細紀難立はる從來

旧習を改政權

朝廷之奉時度々天下に公儀を拜し

聖教を仰ぎ同心協力共々

皇國保護仕はるを必海外万国とて並立はる

事茲百家之所共不遇て事存はる去於見よ

義も有之はる下開方諸候にお達し重んじ

以隨禮命

奏聞仕は以上

十月十四日

臣慶長

右之上書有之御受

朝儀左と通致 仰玉

祖宗以来御委任御依頼有之御内方今

御内之形勢を考案一建白方致之被

思食御同被

御食致御天下と有御心尽力を致

皇國を維持一々奉安

宸襟御御決御致

大度御御一系も是御儀御御決大名

御被

仰書有之

朝廷御御後之御扱自餘之御事御御

候上 京之上 御決定可有之御事御

御徳川御御配地市中御御御御御御御

御事御御御及 御御御御御

十月十五日

右之上書御御出之御付日十二月十日御幕御

陪後之御有司を御御御御御御御御御

朝儀を御御御御御御御御御御御御御

内府より大義を以て徳めは八支之徳四代居四月  
三日を以て先鋒とて徳軍を指揮し伏  
見を以て支隊及び分隊し徳軍を以てより  
系隊くすべしとて急を以て薩州崎津家言隊長  
先利家無隊出州山内家無隊出井原家  
各隊を以て徳軍各隊を以てしとて各隊を以てし  
沖野清とて急を以て押す系隊く犯しんとす  
より徳軍と戦ふとて大砲の歩合八百千の雷  
のぶとく少銃の多く巨砲やかく徳軍を以てし  
しつとよりなりし徳軍を以てし八回徳軍府三百

年来恩庵徳氏の勇士 官軍方ハ薩長七  
部 且無二赤報の勇士ハ新虎のあしひひ  
とつとてさくさくしりけり徳軍を以てし隊長  
多橋元左衛門とてしりひりり友軍方ハ勇去あり  
一掃し赤破りし徳軍を以てし系隊く犯しんとす  
而く徳軍とて巨砲の分捕を以てしんとて徳軍  
を以てし小隊隊を以てしし付 官軍方の徳軍  
勢弱若我ハ徳軍累印の危しとてしりり徳軍  
長七の勇士大と怒り弱去の身とて虎の勢  
を以てしんとすとてしりり徳軍を以てし

物款の款より大雷の属る如く大雷奮奮烈  
我して款を討つる敵不知中より可笑の敵搦組  
の浪士回冬より伏見表へ屯集しは一件之言  
して列藩信衆も成つる公地にて府をいつ  
し敵を討つ伏見表の家領知の如く振舞う  
が官軍方の將士を何れ款すべきにちまら  
ず易廢亡し隊長直友勇捨も射のどろあふ  
砕る如く何れともなく命をとりて其の属する  
函統と大行を消し返り已り屯集場へ迎込  
し安藤等の如くこそ大砲一發に廢しと云ふ

一八公地より一車どもは時を擧げたる大ひ  
怒り極く之軍報なき者かをいつ我も其の程を  
款するせ上方武士小行渡さんと誓りつ新子  
をへ登り自り其先をけて大砲敵十門搦中  
喚き叫びて進み来るに其後及深淵別正是  
をらんと其子の言隊より知し東山の純武士何方  
騎来るを何程の事かあらん淀川へ切居し程  
の餅食ふたや若とも進み如くと烈友下知  
小三浦孝之相木昨經守佐川忠次系川保部  
山下貞政未も余一騎南千の雷士我おしと

高生分け大砲小砲の火網の中をいともお  
おとすを喜ひ切ぬく歌を討ち喰も多を難  
ふ石矢鶴印を渡りゆく皆あり同じ散を積  
山をたがへ腫血漏きて流川も忽ちおろす  
あるあれが為ふまじふ歌の大軍もきとく我一  
と後八捕の方と題を以ておひか後夜別山路  
三浦お木守徳川五河おの雷士を身合鉄  
少ありこれハ終りの惨戦に終り討死しむひるる  
余の雷士名執ちを抑一先東福ちの陣を  
引揚りふハ雷士かりるるをいぬねるねにの戦

ひハ薩州勢と新敵方ハ奇合の大軍にて大  
小砲の奇合奇ハ洛中へ寄き京師の民今  
や款勢犯入せんやと為氷を臨り公地して  
只徳勢と居りるあるおけまハ名もつくる  
薩州勢おまハ其陣の甚武勇も世中へ  
されハのまじりとする百挑を我ふもさぬつる  
づりともえさざりる其勢本州勢入に守本村  
良正小川為皆佐伯疾しゆも雷士流川  
其の薩系と埋伏なり一歌勢をきりまじし時  
ハよと居一河不被連て賊の獲合切りふ



不意を討きて賊を討つ。甲辰路を断つ。賊を  
討つ。八幡山勢大流の勢を如く追ふ。海軍ハ  
其勢勢極む。切まる。小賊を討つ。七割を  
八破。小舟船を是氏。敵火。煙。これ  
中。と。院の方へ。不。中。海軍の  
勢。勢。と。切。を。の。て。約。多。小。流。海。軍。の。子  
亦。擲。の。勢。を。引。く。如。く。追。く。揚。利。の。極。子。と。勢。始  
て。難。生。の。思。ひ。を。守。り。る。者。に。征。討。大。將。軍  
宮。錦。の。御。旗。を。お。お。さ。官。兵。を。率。ひ。日  
九。所。發。軍。なり。あ。ひ。たり。八。束。寺。御。本。体。

を居るひ。翌日。子。天。を。御。旗。を。の。後。の。方。へ。と  
進。ま。ふ。伏。見。に。ハ。八。幡。山。土。流。の。流。軍。勢。門  
。く。渡。の。方。へ。と。進。軍。か。く。あ。ま。さ。大。軍。の。雲。霧  
。華。。か。を。期。款。の。熱。軍。大。恐。怖。。後。の。大。橋  
。少。橋。を。切。断。し。城。下。の。要。地。に。屯。集。に。て。又  
。八。幡。洞。ヶ。崎。に。ハ。彼。岸。井。川。を。あ。ま。さ。し。る。者。を  
。討。つ。に。御。旗。の。勢。を。追。つ。る。法。候。に。ハ。不。陣  
。を。し。て。軍。を。お。断。つ。る。者。に。大。義。失。せ。し。後。に  
。敵。軍。の。勢。を。討。つ。が。錦。の。御。旗。の。勢。を。あ。ま。さ。し。る。者。に  
。否。や。忽。ち。明。途。と。無。へ。陣。伏。に。出。る。者。あり。又。ハ

一、三つとあり共救多かりしが新り、民家へ  
押入彦氏を殺害し、衣食金銀の類別なく  
掠奪し、之を暴悪にせよ、おかく侍る、一、かり  
々、次第あり、去程不釣款の軍、約、勝川、播磨  
味方の、牧軍を、口惜く、思ひ、多、う、が、味方、三、百、多、束  
毘、願、漢、代、の、面、と、上、方、ハ、寺、金、勢、今、一、う、び、かり  
か、一、一、此、和、辱、を、為、か、ん、と、亦、中、丹、後、一、亦、一  
合、先、遠、城、の、要、害、ま、う、り、ゆ、能、再、戦、せ、ん、と、頻  
々、小、城、下、と、放、火、を、一、城、中、へ、向、ら、ん、と、す、り、り、  
城、の、災、圍、に、候、し、一、れ、ハ、竹、中、勝、河、の、友、約、を、殺

若小面今致、一、方、中、入、多、多、の、城、門、より、松、田、典、礼  
在、出、行、の、や、ん、と、も、不、交、不、交、の、日、高、橋、を、多、か  
の、身、ハ、後、代、恩、尾、の、長、多、多、ハ、速、に、異、城、に、逃、れ、  
功、勞、を、長、き、れ、し、と、も、な、れ、ハ、松、田、大、三、怒、り、後、代、恩  
庵、と、ハ、私、交、へ、普、天、下、王、土、一、あ、ら、ば、と、ら、る、は、し  
卒、土、の、後、三、と、と、王、位、な、ら、ざ、ら、な、り、一、高、城、微、弱  
なり、と、い、ふ、も、好、し、一、希、訪、上、道、く、我、少、身、と、り、元  
主人の名代として、此城を、致、る、何、ぞ、一、天、朝、を、背、  
く、逆、賊、と、な、せ、ん、や、と、云、放、ち、多、れ、と、交、り、ハ、強、く  
槍、柄、強、候、不、及、少、交、城、中、より、村、田、右、久、を、災、出、

大に怒り 朝敵送威小瀨八重とらひつて大身  
の槍をとりくく引き寄せ腕の竹中を突くんと  
なりなれを友のあつては言ひあはれはてなす  
は跡を逐ふなり初も大將軍宮河方へもか  
は御をとりくく引き寄せ腕の竹中を突くんと  
なりなれを友のあつては言ひあはれはてなす  
下知しつるなり小瀨八重は因縁を  
初 王世二の勇士とも我おととと進路は故  
勢もは空破りまゝと双方火花をとりして戦ひ  
しは因縁なりなりなりの中にも是れ戦道  
河上乃心松永義明伊波重治石川義忠十川良久

吉田義之上山忠之出崎守正大村義忠石川勝久  
入江敷有田彦左衛門辰兵衛石川和之助友  
村足穂舎山者万益とてと猛火城の中と  
飛越別進将卒のさうひなくおこ切入  
極虎の羊牧へ入しはく敵と討交敵も知  
花くくく雷瓶一終不礼軍の中と戦死を  
た遂に身とりを極勢も破り大砲小銃を介  
去兵も持てハ橋橋中へ攻め入りたるを  
征討將軍も宮河方ハ 錦の所を南の方へ  
進く進くせしむるなりハ橋の戦へ編出男

也正盛を徳山藩より兼て初 王の志一清  
今も我死る所を以て

すゝもいでありしにむかひ我士の

かゝるをかねりしに其の山を

かくはがささすゝ救多の款を其の敵群の働

しに敵群を我死をせしむる山崎の園

のようを其の各隊揮甲し大砲射つ揚子橋

系の賊中へお出しにれはつて賊を我死して

徳山系より友軍ハ破布の勢も款一人も踏及

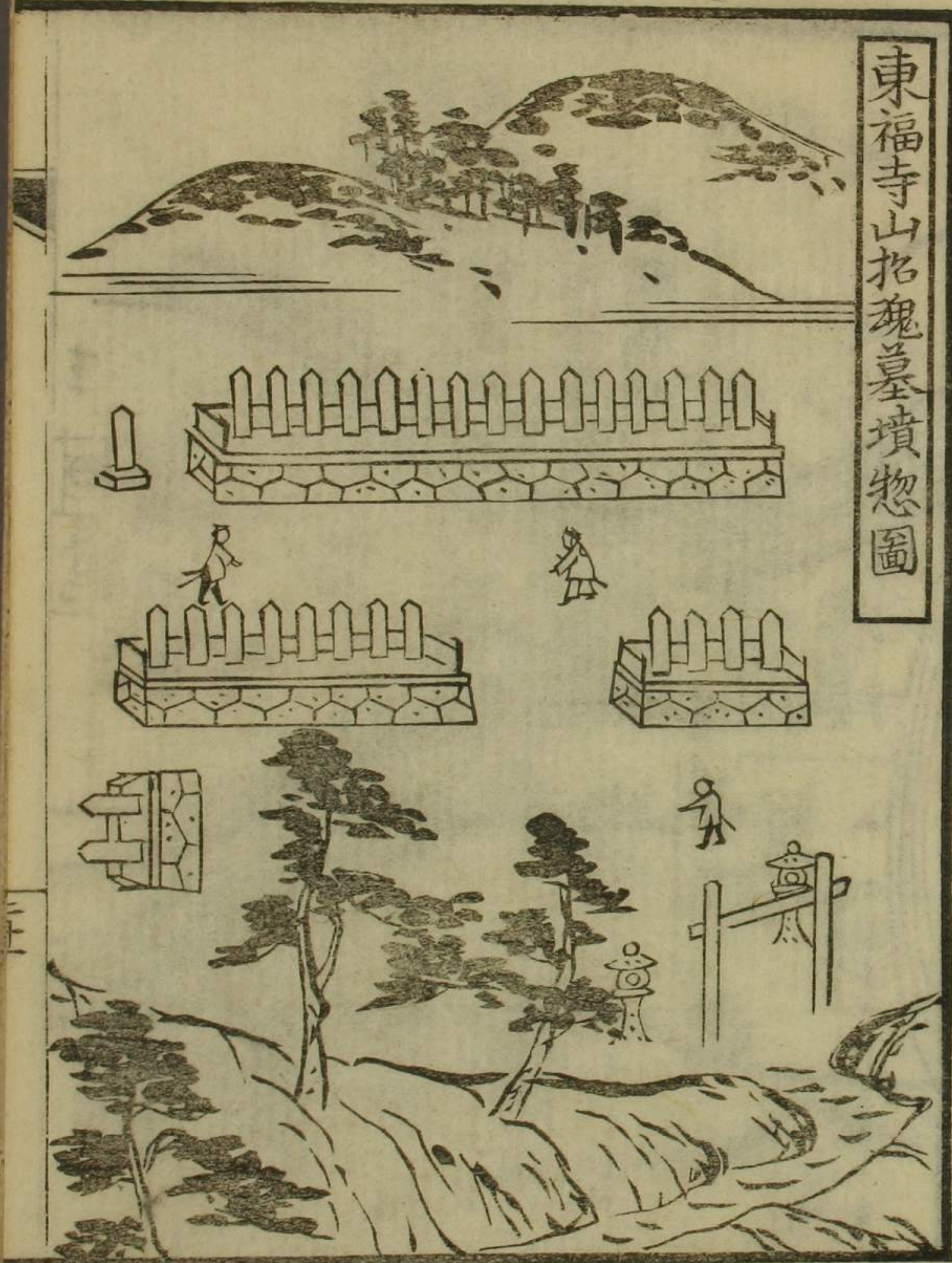
る所のたゞくは徳山系より一人に徳山系を

為ては初て友軍勢向ふを進む所も大  
徳山系を以て徳山系と押寄りや其久保  
連右義房小林半右衛門次郎方大坂  
城一と兼業と名を以て其先を以てお入しに  
まゝんや款勢一人も不出合コハつと小と壯  
多小敵小天地を敵し深狭も地に入ぶとわ  
りやとらんらん地雷火を以て表むしに志士  
けりまゝに死しにむかひに其の敵の徳山  
味方の敵軍を以て其の徳山系を以て  
浪糸城ハ日本一の徳山系は今一分備

今智略の心をすうんと思ふを内府云ハ  
天威を思ふもい子先を喜ぶか田の後分業船  
一江埔さして居る多しと嘆け佐和守大  
経もさる子再戦の義智もかくけ出るとして  
埔中より火雷火を仕懸垂雲より放火の勢を  
くくさし埔の後より中絶するも業何くとも  
なく居去り初て官軍ハ名不存分後利  
を内大將軍宮河方徳也を恐る秘きうひひ  
目出度河勢海起りききたり一板船をくらり  
初廷よりハ子迷兵火をさし一人民を憐愍し

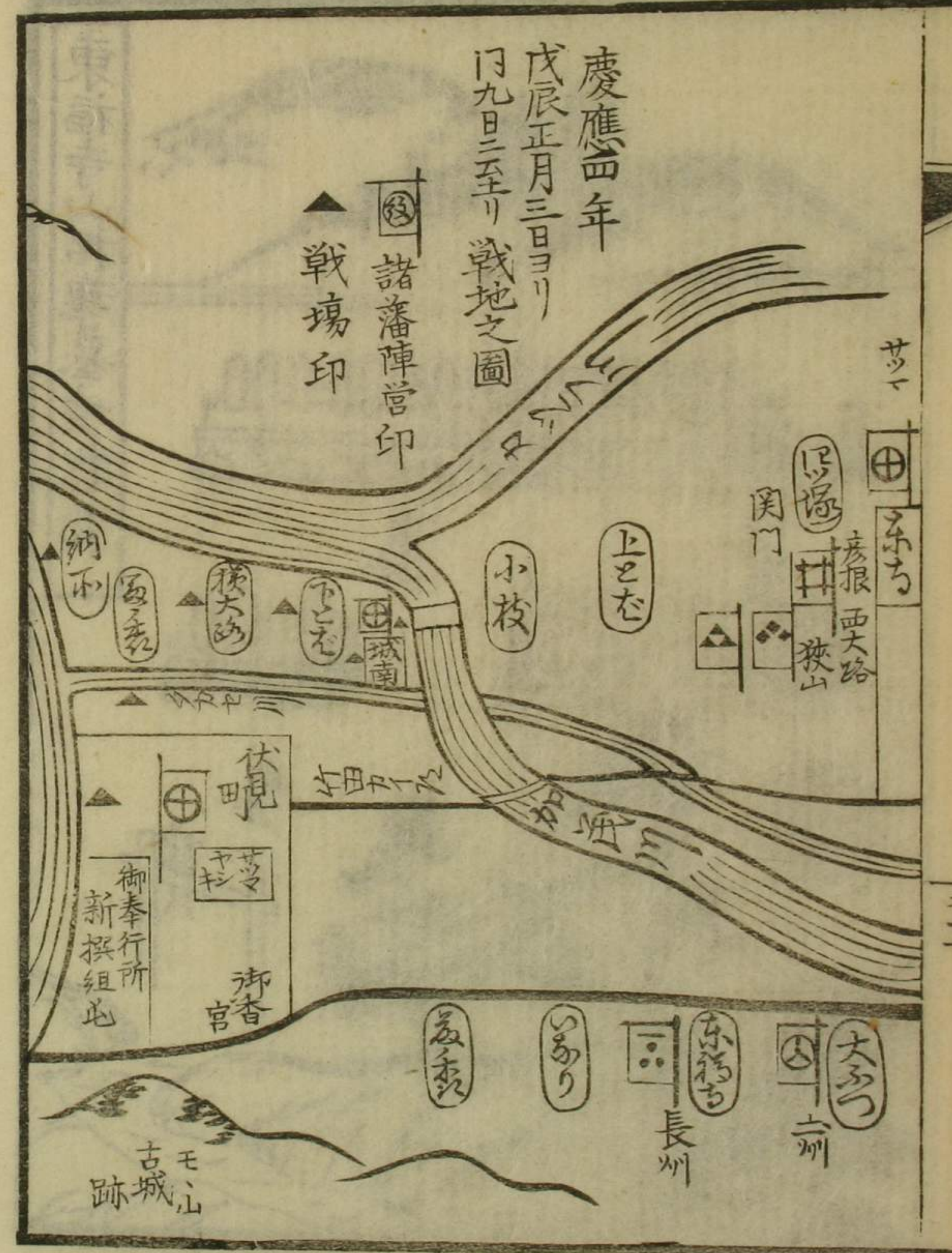
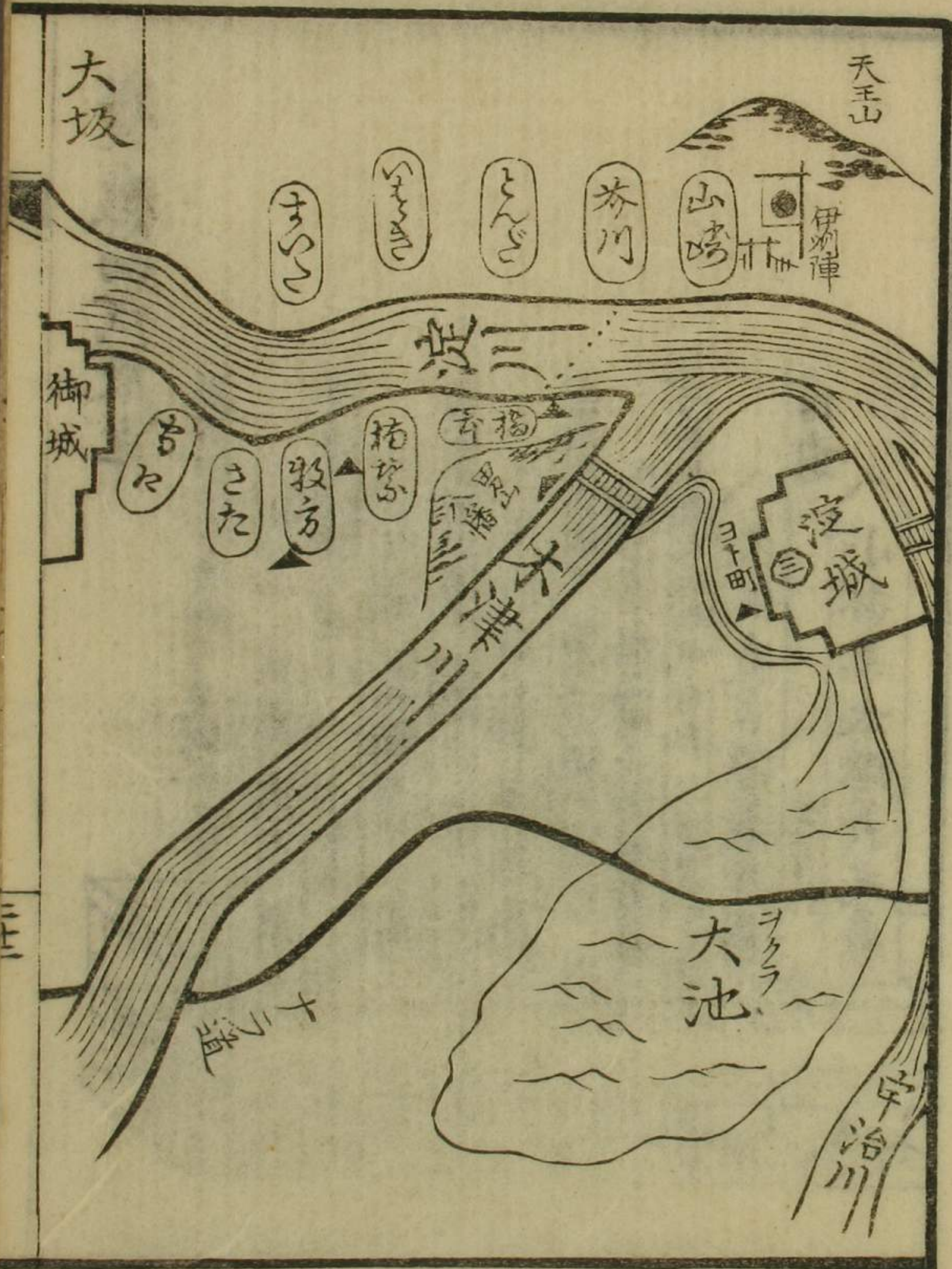
多し難焼救万朝一糸絨鞍一く終りたるを  
孫 朝恩の法仁惠を作きさきと京師ハ勿  
論彼ん揚河泉を介由ふの危民始て安堵  
の思ひをせし一即代万歳を祝したり  
附曰わくの戦場より産産を始め張慶常戦  
闘る陣多しれもけ出ハ東福多山戦死由來の  
記しして終るふあつうきねハ只戦死神靈  
の勇戦を揚りを要とて後生終ハき機  
たきハ人々あやしきうかひのありけり  
去中 去之矣ハ衆へされとも予一ハ東福多

東福寺山招魂墓墳物圖



山系おの折々傍の志丈彼依名我争  
 大坂志の殆末たも詳しゆりしを信のふ  
 算るん身の次身よ符合すれハを概略  
 を紙にて紙中を繕ふりぢんぢん大人  
 の言強よ侍るものあきしむを松文疎後  
 とゆりし人と

記者謹言



慶應四年  
 戊辰正月三日ヨリ  
 月九日ニ至リ 戦地之圖

▲ 戦場印  
 諸藩陣営印

慶應四戊辰年

正月四日於高瀨川堤戰死 九七

斤山 金治茂定墓

日三日於伏見戰死 一七

三浦龍輔孝之墓

日四日於高瀨川堤戰死 九七

尾川猪三郎直忠墓

日六日於城州八幡列木邦戰死 九七

德山藩 福嶋男也源正盛墓

日十日於大坂城中即死 二七

久保直吉源義房墓

日前 三十一

小林隼太源義光墓

日前

竹田次郎藤原常忠墓

日三日戰於伏見月土即死 九三

原田糸之進義周墓

日 日於伏見戰死 九五

相木岡四郎師繼墓

日前 九六

宇佐川熊三平忠次墓

日前 九六

後藤深藏藤原則正墓

日前四日 九七

原川金藏源保邦墓

日前日 九七

山下羽平藤原貞政墓



日四於鳥羽戰還死 九二文

入江隼人源重忠墓

日前

河村梅吉多羅正良墓

日前

品川喜市源義皆墓

植田瀧之助清信墓

日五日於淀戰死

黑瀨千代太郎藤原賴近墓

日前

河上四郎源道正墓

日前

松原善人源義明墓

十九文

日前

伊藤京次搦香奇墓

日五日於漫邊戰死

石川厚狹助正臣墓

日前

十川三郎大江良久墓

日六日死

吉田順之助源義久墓

日十日死

上山讚五郎源忠之墓

日八日死

岡崎高捷藤原守正墓

正月六日運糧於八幡戰場  
為銃丸所死行年十九文

岩目新藤小者  
万藏墓

日六日八幡役被創三月廿  
於周防山口死年三十四

日三日伏見役被創四月廿  
於周防山口死年三十三

日三日伏見役被創三月十日  
於周防山口死年三十九

日五日道堤役被創四月廿  
於周防山口死年三十三

平野光三郎平忠國招魂之碣

田代三之丞義孝招魂之碣

宮田半四郎源師久招魂之碣

原川助右衛門安則招魂之碣

盧原田守

巖佐三郎掇平重敏之墓

小須賀逸衛源知良招魂之碣

美香房之進正義招魂之碣

十川彦四郎義彰招魂之碣

大村清次郎義忠墓

佐伯鉄之助墓

石川和三郎勝久墓

入江勝馬一義墓

正月五日於渡戰三月廿四死

日四日於島羽戰還元四日死

日五日於渡戰元四日死

日前

元六十九

元二十九

元三十九

元十九

門前

有田彦兵衛忠老墓

元三九

門前

戸澤竹治郎政勝墓

元九九

門五島渡邊戦四六日死

元九九

石川伊三郎義忠墓

門日於渡邊戦死

元一七

藤村美次郎足穂舎捨彦墓

南向二建

別能仁三郎源義勝招魂之碓

小遣好兵衛招魂之碓

續隱玖菟岐集 早

門五日漫漫被被創買吉  
於周防山口死辛丑有八

隱玖菟岐集 初篇 二篇 刻成

同三篇 近刻

注云ハオノイハシヲシテ拾ヒト教賀長院の墓傍  
をくハ東北義経ノ碓ホと稱シテ其ノ墓と  
傳ク然ルニ考案ナリシ所ナリ其ノ墓傍  
後述ノ必勝ノ墓ナリ

大坂書林

心斎橋通塩町角

綿屋喜兵衛

門 通北久堂寺町

河内屋源七郎

三條柳馬場角

堺屋仁兵衛

寺町通松原下

菊屋喜兵衛 板元

京都書林

京橋書林

寺田直休原下

漢皇喜兵衛 外云

三条時義原角

野皇二兵衛

町 藍山金堂寺田

阿内皇親十夜

大友書林

山 舟齋直齋伊頭

齋皇喜兵衛

同三篇 並一

同三篇 並一 此處有詳細的書目或說明文字，因字跡較小且為草書，難以逐字辨認，但可見其為對前文內容的進一步闡述或目錄。

野皇漢武集

必篇二篇 外夜

